

サビエル生誕五百年



巡礼の道

163

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

一枚の写真から

旧満州の奉天で生まれ、二十一年の引き揚げ
れたとはいえ、そこには
まだチチハル、鞍山など
わずか一年。その後昭
に住みはしたが幼少時

の六年弱だからほとん
ど記憶はない。
旧満州を訪れる前に
何か当時の記録がない
か捜した。私の一番古い
写真が、奉天で家族五



奉天時代の姉と兄

人そろって
撮ったもの。
しかし、風
景がなく満
州を想像で
きるもので
はない。
兄も亡く
なり、残る
は愛知に住
む姉。電話
で何かない
かと尋ねる
と、奉天で

撮った兄と姉の二人が写
ったものが送られてきて、
ポプラ並木、満州らし
さが少し感じられる。
義姉からは当時のこ
とは知らないからと兄
のアルバムがそのまま送
られてきた。

風景写真は一枚しか
なく、一枚は万里の長
城。もう一枚は見たこ
ともないので、何の添
え書きもない。

もしかすると奉天の
ものかもしれないと思っ
てデジカメに収めて旅
に出たのだ。

ところで二〇〇七年
七月現在、世界遺産は
八百五十一件。このう
ち中国は三十五件。イ
タリア、フランスなどと
並んでトップクラスの登
録件数からも中国の歴
史の古さ、面積の広さ
がうかがえる。

奉天(現瀋陽)には二
つの世界遺産がある。一
つは北京の故宮ととも
に登録された瀋陽故宮
である。

清朝の前身、後金(こ

70年前に撮影した昭陵



世界遺産に登録された昭陵



二〇〇四年に世界遺産
に登録された。

うきんのヌルハチが造
営した宮殿で一六三六
年に完成した。北京の
故宮に比べると十二分
の一大きさではある
が見応えは十分だ。

もう一つは明、清朝
の皇帝陵墓で、ヌルハチ
の子で清朝初代皇帝ホ
ンタイジが眠る昭陵。

立派な入り口の門の
前の広場は小学生の修
学旅行の団体であふれ
ていた。中に入ると左右
に動物の石像が並んで
いる。そして正面の建物
を見てびっくりした。出
発前に兄のアルバムの中

にあった建物があるで
はないか。

多分、父が撮ったと思
われる写真は清朝初代
皇帝ホンタイジが眠る
昭陵だったのだ。今回の
映像と並べても七十年
ばかり前の昭陵に間違
いない。

父は今日あることを

思って写真に収め、兄の
アルバムの中に残してく
れたように思える。父
は昭和二十七年、四十
七歳の若さで亡くなっ
たが、私が小学校五年
の時だ。父が急に身近
に感じられた。
(元山口放送取締役ラ
ジオ局長)